1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791600162		
法人名	大都美装株式会社		
事業所名	グループホーム明日葉(2階ユニット)		
所在地	吹田市南吹田2丁目3番16号		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	平成24年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成24年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①入居者の方々がこれまで送ってきた生活習慣を大きく変えることなく、ご自身の居場所を見つけることができ、穏やかに暮らせるような環境整備を心がけています。玄関前にはホーム名由来である「明日葉」と季節の花を植え、部屋ごとに壁紙を変え好きな家具を持ち込んでいただいています。居室部分の床にはクッション材を用いて安全に配慮しています。②地元のスーパーで購入した食材で、旬のものを取り入れた手作りの家庭料理を提供しています。リクエストに応じてお好み焼きを一緒に焼いて昼食にしたり、お彼岸におはぎつくりを一緒にしておやつにしたりしています。③地域の盆踊り等のイベントには職員共々積極的に参加し、地元の方と散策時に声を掛け合うなどして「ホームの人」ではなく、「地域の住民」となれるように努めています。④ご家族の思いにも丁寧に傾聴し、家族支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設2年目を迎えた今年度の事業所は室長や新管理者の下で1年目とは様変わりするほど軌道にのり、落ち着いて利用者へのサービスの質の向上に向け職員皆で日々取り組んでいる。この1年の目標達成計画に掲げた3項目の課題に関する取り組みも全て前向きに改善されている。利用者の好みを把握した上で旬の食材を仕入れ、手作りで調理して食事前に口腔体操をし、職員と一緒に楽しく会話しながら食事している風景は「食が育む健康な暮らし」づくりを実践している。地域に根ざしたホームとなるようアンテナをはり、来年は近隣のコスモス畑の草抜きなどを計画する等、法人のスローガンである「物を大切にする、人を思いやる」を実践すると共に事業所独自の理念である「優しさの絆」作りにつなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域で深める優しさの絆 食事が育む健康な暮らし」を事業所理念とし、管理者及び職員全員が共有し実践につなげている。	事業所独自の理念を課題として皆で相談し、新たに見直され作成した。地域に根ざした明日葉の葉のようなグループホームになるよう、日々その定着と共有を行いその実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を開催しホームの活動状況や事故報告の開示をする等、ホームの取り組みを地域に理解して頂けるよう実践している。自治会に所属し、地域行事には職員共々積極的に参加し交流を図っている。	自治会に加入し、盆踊りや敬老会等の地域行事に積極的に参加している。近隣の田畑への散歩時に農家の方と会話して情報を得、来年はコスモス園への手伝いを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の「認知症による困りごとの相談窓口」となることを目標としており、入居申し込みに限らず、相談にこられた方には、個別に時間をかけて傾聴し問題解決に向かうようお手伝いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々には度重なるご配慮やお力添えを頂き感謝に絶えない。今後も貴重なご意見に耳を傾け、更なるサービス向上に努めていきたい。	年6回、家族・自治会・地域包括センター・民生委員が参加し開催されている。単なる行事報告だけでなく事故報告等を開示して双方向な議論を展開している。またテーマをきめて話し合うことも計画している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険事業者連絡会の定例会に必ず出席し、他事業所を始め市介護保険課の担当者との連携を密にしている。障害福祉課や生活福祉課、介護保険課監査室とも積極的に連絡をとりサービス向上に努めている。	市が開催する連絡会に出席し、情報を得ている。市担当者との接触は多く、気軽に相談できるようになっている。運営推進会議に地域包括センターの担当が参加し。適切な助言が述べられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「ユニット毎の玄関の施錠はしない」を始めとし、身体拘束排除の取り組みはできている。建物玄関は防犯対策として電子ロックにて施錠しているが、内部からは容易に開錠できる仕組みになっている。	原則、身体拘束は行わない方針を明示している。各ユニットの入口の施錠はしていないが1階の玄関は防犯の為施錠している。外出は気候が良い時は日常的に実施している。	事業所として身体拘束マニュアルを作成し、それに基づいて議論や定期的な研修を積み重ねる事を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	市の指導の下、「高齢者虐待防止関連法」についてユニット毎にマニュアルを作成し、虐待と思われる事例を発見した際の通報先を掲示し啓発に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が社会福祉士であり、権利擁護に関する制度を周知している。ご家族より成年後見制度についての相談があれば、丁寧に対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関脇にご意見箱を設置している。面会等の機会ある毎に家ご家族と話し合う時間を持ち、ご意見を伺いながら運営に反映させるよう努めている。管理者が毎月通信を発行している。	家族の訪問時には出来るだけ職員は意見や要望を聞くようにしている。家族への手紙による利用者の状況報告は管理者の努力で改善されている。	意見や要望は事業所として財産になる。全職員は共有し、些細な意見や要望でも地道に苦情処理簿に記入してサービスの質をより一層高めることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年毎に職員の個別面談を代表者と管理者が行っている。ユニット毎のミーティングや、申し出があれば個別に意見や提案を聞き、リーダー会議で検討した上で、職員にフィードバックしている。	職員は会議で意見を言える環境である。管理者は提案に対し、前向きに改善を実施している。法人として定期的に個人面談の機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のシフト希望は可能な限り優先的に叶え、労働意欲を高める努力をしている。雇用契約の変更の申し出は可能な限り受けている。半年ごとの評価時には「前向きになれる評価」を心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格者には2級ヘルパー取得を勧め全員が取得した。就業中に研修を重ね、日常の小さな事柄や基礎を確認する作業を積み重ねている。更なるスキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護保険事業者連絡会に所属し、交流は活発である。現在、事業者間の相互見学や研修に取り組んでいる最中である。この交流が活発化し、入居者同士の交流に発展することを期待している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	警戒心を解くための努力を惜しまず、信頼関係が構築できるよう柔らかな姿勢で話しかけ、本人の不安や困りごとに傾聴するよう、関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークの段階で家族の思いにしっかりと傾聴し、家族の信頼を得た上で、家族を含めた支援を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークの段階では混乱しておられる場合が多いので、主訴に傾聴しながら隠れたニーズを見極め、解決できるように支援している。他のサービスが望ましいと思われる場合は、適切な助言をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができることには介入せず、困ったことがあれば共に行う姿勢で支援している。共同生活を営む当事者同士で解決できる場合は、敢えて介入せず、側面から支援する姿勢で臨んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員からのサービス提供ばかりでなく、ご家族からの協力も頂き、利用者全体を共に支えあう関係作りを目指している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	旧知の知人や知人の来訪を迎えいれている。昔親しんだお稽古事を再開するなど、馴染んだ生活が保たれるような支援に努めている。	知人や友人の把握に努め、来訪を支援している。各自の体調を把握しながら、以前に培った稽古事を支援したり、馴染みの場所として墓参り等を家族の協力で支援している	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自室に閉じこもらず、他の入居者の部屋を訪ねたり、リビングで共に過ごすことができる環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	2名事例あり。継続して支援に努めている。入所希望の問い合わせだけの方でも、いつでも気兼ねなく相談して欲しいと伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いに焦点をあてたモニタリングを重ね、ケア計画に反映するよう努めている。新規入居の方の場合は、本人本位でアセスメントをしっかりと行い検討している。	今日何をしたいかという1人ひとりの思いを把握し、出来るだけ利用者に寄り添いながら支援している。把握が難しい利用者には家族と地道に相談しながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	できている	利用者ごとの心身の状況や希望を把握し、3ヶ月に1回モニタリングを実施し3ヶ月に1回は計画の見直しをチームで相談しながら実施している。急変時や家族の要望がある場合はその都度変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有しながら実践し、ケアプランの見直しに活かすことは概ねできているが、日々のケアの実践・結果・気づきや工夫を個別記録に記入するところが、やや不十分である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別に柔軟な支援が出来る事業所でありたいと考えている。昔馴染んだお稽古に通う等、ひとつずつ実践している。ふれあいサロンへ定期的に参加するなど、地域ならではの取り組みも検討中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や自治会の方々の力をお借りしながら、認知症があっても一地域住民として暮らせるよう支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医に通院するか、ホームの往診の医院で受診するかを選んでもらえる仕組みになっている。いつでも変更可能であり、本人及び家族の意向を尊重し、適切に支援している。	入所以前のかかりつけ医への受診も支援出来るが、家族の希望で協力医療機関がかかりつけ医となっている。月2回の内科の往診以外に精神科の医師が別な日に私服で来訪され受診が出来る体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切に支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	適切にできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	2例事例あり。2例とも適切にできている。看取りについて日常的な医療処置が必要な場合は、現時点ではできない旨を契約時に説明している。年数が経過してくると、状況が変化するので、慎重かつ早急に取り組むべき課題と考えている。	現状、まだ終末期に関する対応は出来ていないが、事業所として出来る範囲で支援している。今後、事業所として重度化や終末期に向けた職員の研修や体制構築に取り組むべきことを検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のマニュアルを作成し、緊急時に必要な書類等は取り出せるように職員に周知徹底している。定期的な訓練については早急に取り組みたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署と連携し、年2回(1回は夜間想定)の訓練を実施している。	年2回、消防の立会いの下、災害時の消火や避難訓練を実施している。	自治会に防災委員会があれば参加し、事業所独自の避難誘導マニュアル(特に夜間時を想定した火災や地震・水害)を作成し、それに基づいた訓練を重ねる事を期待したい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	例えば、居室は個人の家と考え、入室する際は必ず本人の許可を得てから、を徹底する等、概ねできているが、更なる研修を重ねスキルアップを目指している。	プライバシーを損ねる言葉や態度に気づいたときは職員同士が互いに注意しあうよう努めている。利用者の尊厳を大切した配慮は職員会議でもくり返し議論をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「どうされましたか?」「何をお探ですか?」等困っている様子が見られると「開かれた質問」で問う事を心がけ、本人が応え難い時は「閉じられた質問」で問う等工夫をしているが、更なるスキルアップを目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に添うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けは入居者の自発的な意思を尊重し随時対応している。職員と一緒に食卓を囲み、和やかに食事を楽しんでいる。白米にふりかけや梅干を乗せる、お粥を選択できる等の仕組みになっている。	季節ごとに旬の食材を仕入れ、選任の料理担当が調理している。利用者は下準備や片付けを出来る範囲で手伝い、職員と一緒に楽しく食事している。「食が育む健康づくり」は事業所のスローガンでもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できている。訪問歯科医と衛生士の指導の下、適切なケアが行えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を目標に支援している。	職員は排泄パターンを排泄チェック表から把握し、出来るだけ自立で排泄が出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に食物繊維が豊富な野菜やきのこなどを多く取り入れる、おやつにヨーグルトを提供する、十分な水分摂取に向けて個別に飲み物の工夫をする、散歩や運動をするなど予防取り込んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意向をまず尋ね、個々に添った支援をしている。	週2回は入浴出来るように支援している。時間・頻度は利用者の希望に対応している。嫌がる利用者への誘導は言葉等で工夫しているが入口の暖簾等も検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意だった方は一緒にする、新聞を読むのが日課の方にはホームで新聞を定期購読する、様々なジャンルや時代の音楽を流す、日替わりでレクリエーションをする等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散策やコンビニへの買い物など、本人の希望に添って支援している。スーパーへの買い物や季節の移り変わりが感じられるドライブなど、戸外での過ごし方を取り入れている。	暑い夏以外は出来るだけ日常的に近くの田畑等に散歩する事を大切にしている。花見や紅葉狩りやバラ園等への特別な外出も実施している。地域のふれあいサロンへの参加を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人と家族の意向を踏まえ、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木目調の扉、個別の壁紙、カーテンでの採光調節、エアコンでの室温管理等快適に過ごせる工夫をしている。ホームでのイベントの写真や季節を感じる装飾などを掲示し、入居者や家族に笑みがこぼれ、職員とも会話が弾む工夫をしている。	床材は全てクッションフロアを敷き安全対策に配慮している。共用空間はゆったりと広く清潔に保たれている。壁にはイベントの写真や季節ごとに貼り絵等を飾り季節感を感じる雰囲気作りを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のTV前にソファを置いたり、リビングのテーブルを一部離す、バルコニーには好きな時に出ることができる、いつでも好きな方の部屋(了解があれば)を訪れることができる等の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具や時計を置く、家族の写真等を飾る等好みに応じて馴染みの環境を継続できる支援をしている。安全確保のために、センサーマットを置いたり、ナースコール、スプリンクラーを完備している。	居室ごとに壁紙の模様を変え、利用者は慣れ親しんだ家具や小物を持ち込み家庭での住まいの延長となるように支援している。写真等を飾り、居心地よく過ごせる環境作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりをめぐらし、扉を開けやすい引き戸にし、床の段差をなくし、物理的な自立支援の工夫をしている。トイレの場所の明示や、個室には表札や写真を掲げわかりやすくしている。		